

オープンアクセスは機能しているか (スティーブン・ピンコック)

Daily news – Will open access work? By Stephen Pincock.

The Scientist. Oct. 11, 2005. <<http://www.the-scientist.com/news/20051011/02>>

調査は、ピアレビュー、財政についての懸念を表明した。オープンアクセスの提唱者は、報告書が偏向しており、疑惑のあるモデルを意図していると主張する。

本日(2005年10月11日)公表されたオープンアクセス出版についての報告書¹⁾は、いくつかのオープンアクセス雑誌のピアレビュー、編集の標準および将来の財政についての懸念を表明した。しかしながら、オープンアクセスの提唱者は、最新の報告書が資金助成者によって偏向を受けていると主張した。資金供給者には学会・専門協会出版協会(ALPSP: Association of Learned and Professional Society Publishers)が含まれ、その会員には、予約購読雑誌の出版社が含まれている。

本調査の他の資金提供者には、予約購読雑誌 *Science* の出版社である米国科学振興協会(AAAS: American Association of Advancement of Science)²⁾および雑誌論文のオンライン・リポジトリである HighWire Press が含まれる。本調査は、米国医学大学協会(AAMC: Association of American Medical Colleges)からの追加データを含む。

過去10年にわたって、読者が料金の支払なしで論文にアクセスすることを認めるモデル、オープンアクセス出版³⁾についての議論が増えている。議論⁴⁾は、部分的には、著者の投稿料および他の資源からの費用を集める、新しいモデルが従来の科学雑誌に与える影響について集中している。

本報告書によれば、比較可能な数のオープンアクセス雑誌と伝統的な雑誌が論文のピアレビューを行っているが、より多くのオープンアクセス雑誌(28%)が、外部の専門家ではなく、ピアレビューを内部の編集スタッフに依存しているように見えると、本調査を開始し、そのウェブページで報告書を公表した ALPSP の事務局長、Sally Morris はいった。「彼らがピアレビューと呼んでいるものは、ピアレビューとしてすべきであると思われることをしていない。」と彼女はいった。

オープンアクセス出版社には、また、切迫した財政問題があると報告書は述べた。調査したオープンアクセス雑誌の40%以上が、赤字に苦しんでいることを報告し、24%が、収支がとんとんであるといい、残りの35%のみが、黒字(surplus)であると報告する。対照的に、HighWire Press および AAMC の雑誌の81%が、利益が上がっていると報告し、ALPSP の雑誌の75%が黒字を生みつつあった。

完全なオープンアクセス雑誌の半数以上が、著者に課金していないというのが他の予期しなかった知見であると Morris は *The Scientist* 誌に語った。その代わりに、完全なオープンアクセス雑誌の回答者は、著者への課金が、研究助成から生じるか、あるいは、著者の所属機関の図書館予算の配分されるのが最も普通であると報告した。本報告は、また、オープンアクセス雑誌のちょうど72%が編集原稿(copyedit manuscripts)であることを発見した。

全体として、本報告書は、他の雑誌のタイプに比べて、オープンアクセス雑誌の財政上の見通しは暗い。時間がたつと変化すると期待する特別の理由もまたないと Morris は語った。それはオープンアクセス雑誌の事例であるとは思えないのに反して、

「ある雑誌がその確立に成功しようとするなら、従来のモデルの下で長い年月をかける方がよいと思われる」と彼女はいった。

現在の調査 (investigation) では、調査 (study) のパラメーターは、共同出資者によって定義され、研究 (research) および分析は、独立コンサルタントのグループ、Kaufman-Wills Group⁵⁾によって実行された。本調査は、二段階で実施された。第一段階では、128 の ALPSP 会員の雑誌、AAMS の 34 の雑誌、HighWire Press がホストしている 85 の雑誌および Directory of Open Access Journals に収録されている 248 の雑誌を調査した。第二段階では、一連の詳細な事例研究を提供するためにインタビューを 22 の出版社に行った。

The Scientist 誌の姉妹会社、BioMed Central の出版者である Matthew Cockerill は、本報告書は、特定の見解に偏っている主張した。「ALPSP がオープンアクセスに対して敵対的な態度をとっていることは良く知られている」と彼は *The Scientist* 誌に語った。「本報告書はオープンアクセスの信用を傷つける議題を持つようである。」

Cockerill は、多くの点で著者は「基本的に要点がわからない」と付け加えた。例えば、研究論文の原稿編集に関して、「それは、原稿編集の利点が、不十分さのようなマイナス面よりも大きな価値があるかどうかの点についての未解決な問題である。それは、研究の質の問題である。」

また、「現時点でのスナップショット (snapshot from a moment in time)」を使って当該雑誌の将来の財政上の支払い能力を予測するのはほとんど意味がない。

大規模なドイツの出版者 Springer のオープンアクセスの提唱者⁶⁾ Jan Velterop⁷⁾は、また、報告書の知見に同意できないといった。「私たちは、オープンアクセスによってしっかりもつていけることができると絶対に確信している。」と彼は、*The Scientist* 誌に語った。「しかし、法外な利潤を得ることが難しいかもしれない。それは本当である。」

Velterop は、オープンアクセスに対してこのような消極的な見解を学会がとることについて失望しているといった。「その中には科学の振興をその目的の中核としている学会があるが、それを前進させる想像力のある方法が出現するというよりは、むしろ発展を押し戻すことになるように思われることに驚いている。」と Velterop はいった。

本論文へのリンク

- 1) The fact about open access. <http://www.alpsp.org/publications/FAOAOoverview.pdf>
- 2) S.Pincock, "RCUK draft mandates open access," *The Scientist*, June 23, 2005.
<http://www.the-scientist.com/news/20050623/01>
- 3) .Pincock, "UK committee backs open access," *The Scientist*, July 20, 2004.
<http://www.the-scientist.com/news/20040720/04>
- 4) Association of Learned and Professional Society Publishers. <http://www.alpsp.org/>
- 5) Kaufman Wills. <http://www.kaufmanwills.com/>
- 6) Jan Velterop to expand Open Choice," Springer, August 16, 2005.
<http://www.springeronline.com/sgw/cda/frontpage/0,11855,5-40575-2-157192-0,00.html>
- 7) J. Velterop, "Debating open access," *The Scientist*, August 2, 2004.
<http://www.the-scientist.com/2004/8/2/10/4>